



⑧発信する ⑨追究する ⑩粘り強く ⑪つながる ⑫思いや願いを実現しようとする ⑬課題解決する

つながりの中で子どもに様々な力を

校長 許斐 真也

暖差の激しい気候が続いていますが、春は少しずつ近づいてきています。

光陰矢の如し、いよいよ3月、今年度最後の月を迎えます。

この1年間、コロナ禍が収束しつつある中で子どもたちはたくさんの学習を積み重ねてきました。学級の枠だけではなく、様々なひと・もの・こととのつながりの中で、考えを発信したり、多くの知識を得たり、また、自分の役割を確実に果たしたりして、知識だけではない、様々な「今後生きていく上で必要な力」を伸ばしてきました。そんな中で、紙面をお借りして「2045年問題」についてお伝えしたいと思います。

2045年問題とは、コンピューターの人工知能（AI）が人間の知能を越える「技術的特異点（シンギュラリティ）を2045年に迎えるのではないか、という問題です。現在7歳の子どもが28歳を迎える時のことです。AIはかつて工場や倉庫・事務所などである部分に特化するためのプログラミングをして特定の作業を機械化し「ロボット化」や「オートメーション化」へと発展させることで各種製品の生産性を高めてきました。ここ数年では、

- ・囲碁や将棋でAIが人間に勝つ（これはもはや古いかもしれませんが）
- ・自動車にAIを搭載して状況を瞬時に判断し、自動運転を行う
- ・ChatGPTにより、簡易な指示で論文を作成することができる

などの取組が報告されています。これは「機械学習」と呼ばれるものです。

2045年の社会の様子は想像が付きませんが、今の子どもは、将来に向けた準備として、どんな学習をしてどんな力を身に付けていけばいいのでしょうか。

学校では、様々な教育活動の中で、「育てていく力」について次のように考えています。

予測困難な社会の変化に遭遇しても、主体的に関わり、自分の人生や社会をよりよいものにしていくことができるように子どもには次の力が身に付くことを目標にしながら指導をしています。各教科等の学習や行事等の取組の中で繰り返し行っています。

①課題にぶつかった時の「問題解決力」「コミュニケーション力」

②自分の考えをしっかりとち、伝える「思考力・判断力・表現力」

③地域や社会に関心を持ち、人と関わる「温かさを含めた人間力」

④学校だけの学びだけではなく、生涯学習につながる「学び続ける力」

*①と②は単に「知識・技能」を身に付けるだけでなく、どのように学ぶか、どのように判断し、伝えるかという過程も重視しています。

*③と④は多くの人と関わる中で自らの生活や行動について考えを深めることや相手の考えや思いを受け止め、理解することを重視し、学ぶ意欲は生涯にわたるととらえ、人や地域と関わる学習を大切にしています。

沢山述べましたが大切にしていきたいことは「いろいろな面から人間性を磨く」ということであろうかと思えます。

末筆になりましたが、今年度も本校の教育活動の推進のために保護者の皆様、地域の皆様から温かいご理解・ご支援をいただきました。改めて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。